

# のり海況速報 第5報 (22-5)

平成22年11月17日発行  
千葉県水産総合研究センター  
東京湾漁業研究所  
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 (11/16 : 内湾, 11/15 : 内房北部)  
関東・東海海況速報 (11/16) , 東京湾口海況図(11/16)

## 【水温・塩分の状況】

内湾から内房北部海域の表面水温(図1, 2)は朝方の冷え込みによって一時的に低下したが、ここに来て上昇し、現在ほぼ17~18℃台になっています。

塩分は11月上旬にかなりの低塩分状態であった内湾中央から南部海域も回復し、ほぼ全域で29~32台になっています。

一方、水温22℃台の暖水塊が大島東水道から相模灘・東京湾口に向かって波及しており、湾口部の水温が昨日(16日)から21℃台になってきています。これに伴って、内湾の底層には水温19℃台・塩分34台前半の水塊が浸入してきており、今後もこの動きには注意が必要です。

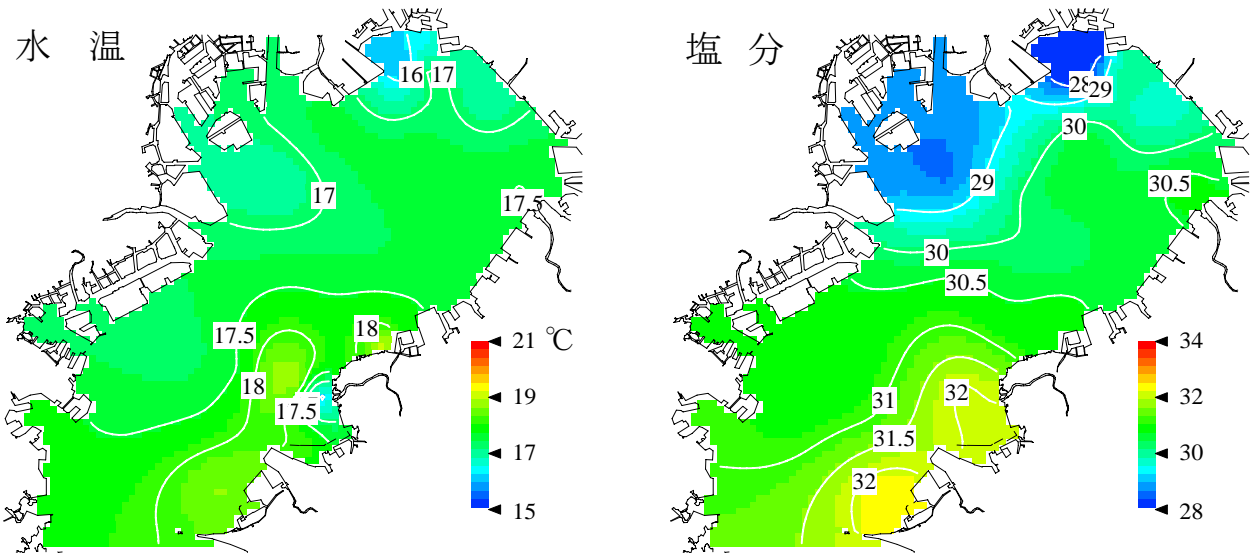


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾 : 平成22年11月16日)

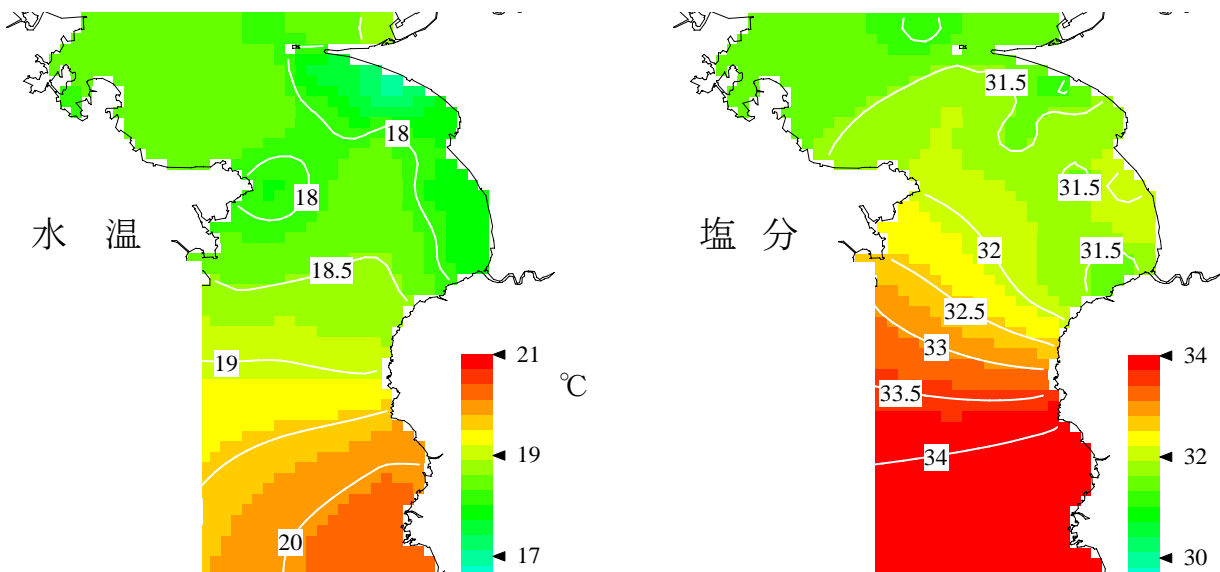


図2 表層の水温・塩分分布 (内房北部海域 : 平成22年11月15日)

### 【赤潮・栄養塩の状況】

赤潮は内湾，内房北部海域とも発生していませんが，内湾ではプランクトンがここに来て増加し始めており，中央から北部は透明度2~3m台とやや低く，水色はやや褐色になっていました。

優占種は渦鞭毛藻のケラチウム，プロロセントルムで，その他にケイ藻のスケルトネマやタラシオシラも多くみられていました。

これらの状況から，内湾では今後の気象によっては赤潮になる可能性が考えられます。

表層の栄養塩(図3, 4)は溶存無機態窒素・リン酸態リンとも全域で十分あり，現在のところノリ養殖にとって問題ない量となっています。

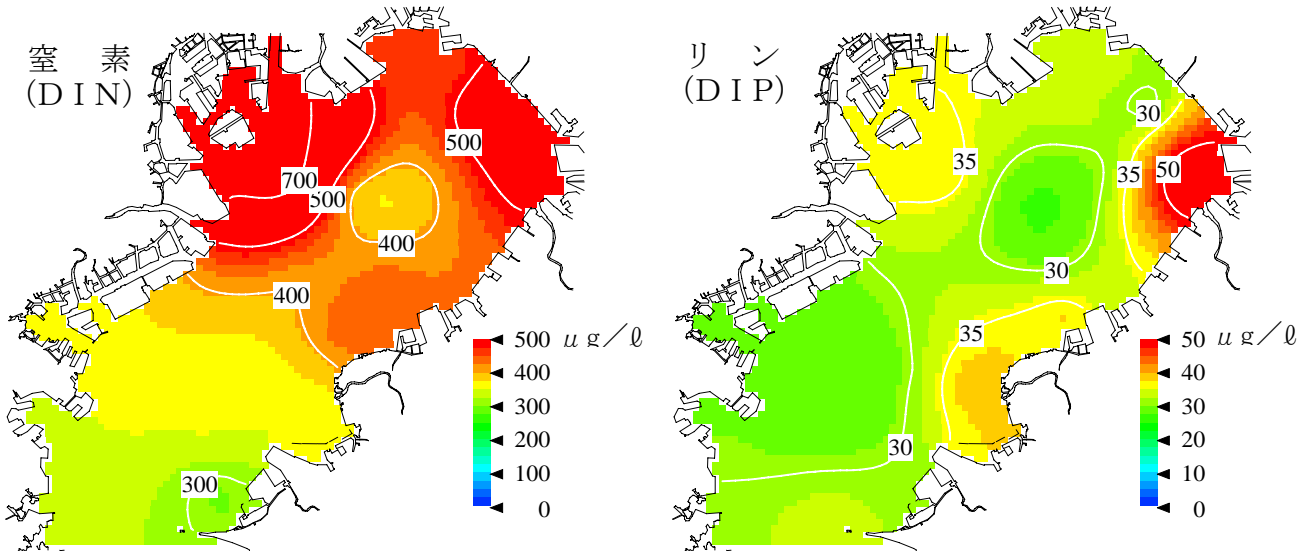


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾 : 平成22年11月16日)

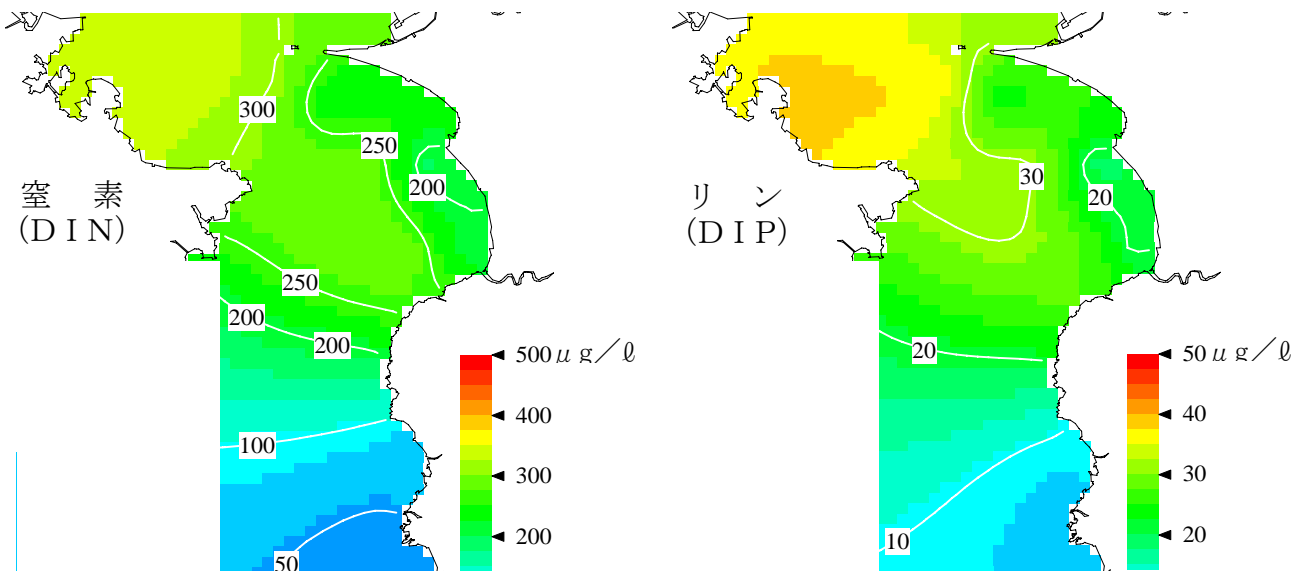


図4 表層の栄養塩濃度の分布 (内房北部海域 : 平成22年11月15日)